

2024年4月14日（主の日）

■招詞 詩編 118:23-24 「これは主の御業、わたしたちの目には驚くべきこと。今日こそ主のみ業の日。今日を喜び祝い、喜び躍ろう。」

■礼拝の祈り

<礼拝の招きへの感謝>

この朝も、あなたの招きにしがたって、こうして礼拝を捧げるために集まって参りました。この礼拝も先に祝ったイースターに根ざしていること、主イエスの十字架が、わたしたちの救いであることをあらためて確かにする時です。この恵みによって、御前に立つことが許され、わたしたちはこうして礼拝をささげることができます。感謝をいたします。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

あなたはこのようにわたしたちを憐れみによって招いてくださいました。しかし、本来であれば、あなたのみ前に立つのにふさわしいところなどなにもなかった者です。一日の生活、隣人、家族との生活の中で、祈ること少なく、御言葉に聞かず、あやふやな信仰で生きてきたかに気付かされます。人を愛するのではなく、自分だけを愛し、時に自分すらも愛さず、真実を求めるのではなく、自分の正しさを証明しようとしてやっきになっていました。その先には、あなたを自分の後ろに置き、忘れ去り、自分が神にすまざるものとする恐るべき罪でした。わたしたちは死ぬべき罪人です。けれども、あなたはわたしたちを滅びに任せることをなさいませんでした。そのかわりに、御子を十字架につけ、罪もろともその体を滅ぼしてくださいました。受難週の主の日、今、もう一度主の十字架を見上げて、み前にひざまずきます。どうかわたしたちの罪を赦すための十字架であったことを思いおこし、あなたのこの大なる恵みの力の中に生きさせてください。この十字架を経て、復活の新しい命をあなたはくださいました。どうかもういちど十字架の事実、復活の真実に立たせてください。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

この礼拝もまた、主のご復活を喜び祝う礼拝をする日です。わたしたちは、主イエスの十字架の死に与って自分の罪の生き方を重ねることで死に、復活の主イエスのいのちに与って、新しい命を与えられて生きていきます。そのことが自分にとって、この礼拝において、聖霊の力によって真実となりますように。そのために御言葉を与えてください。復活の光の中でわたしたちを本当のいのちに活かしてくださるあなたの御言葉を。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2024年4月14日（主の日）

■教会の祈り

<礼拝感謝>

<教会をたてあげてください>

新しい年度を歩み始めました。

神奈川連合長老会も新しい歩みを始めています。昨年度で新しい任地に赴いた教師たちを守り導いてください。そして新しく教師を迎えました。新たに着任された栗平教会大澤牧師、鎌倉雪ノ下教会柳沼伝道師のこれからの歩みを祝福してください。地域長老会をつくるわたしたちの教会がみなでともに教会形成を担い、伝道を励まし合うことができることを感謝いたします。

<困難の中にいる人に救いの希望を与えてください>

病や悩みを持っている人を助けてください。心でも体でもその痛みは本当にはその人にしかわかりません。しかし、すべてを創られ、支配なさり、人の心の奥までもすべえご存知の全能の神よ、わたしたちと同じ体を持ち、同じ痛み苦しみを、最も深いところまで知ってくださる主イエスよ、どうか苦しみの中にいる人達とともにいてください。誰も知らない自分の痛みを知ってくださる方がいてくださる。そのことを知らせてください。

自然災害で困難の中にいる人がいます。能登の人たち、台湾の人たちを助けてください。

<祈りのうちに歩ませてください>

この礼拝から送り出されて新しい一週間を歩み始めます。主イエスに作り変えられた新しいものとして歩むことができますように導いてください。

■祝福

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。